

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 宮城教育大学附属小学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒980-0011  
宮城県仙台市青葉区上杉6丁目4-1  
E-mail watabe@fu-syou.miyakyo-u.ac.jp  
Website http://fu-syou.miyakyo-u.ac.jp  
幼児児童生徒数 男子 352 名 女子 356 名 合計 708 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

### <防災学習について>

本校では、毎年総合的な学習の時間において、3年生から6年生まで防災学習に取り組んでいる。本年度も、3年生から6年生まで系統立てて取り組んだ。

3年生では、主に学校を範囲として、地震が発生した場合の避難の仕方を考えたり、校舎内の危険箇所を調査しマップにまとめたりする活動を行った。

4年生では、通学路を範囲として、登下校時に地震が発生した場合の避難の仕方を考えたり、通学路の危険箇所や最寄りの避難場所を調査しマニュアルシートにまとめたりする活動を行った。

5年生では、大きな地震が起きる前にできることを調査し、発信することに重点を置いた活動を行った。

6年生では、東日本大震災発生当時を振り返らせ、新たに共助の視点を与え、自分にどんなことができるかを考えさせる活動を行った。

全校においては、防災主任が計画する防災教室や避難訓練とも関連させたことで、低学年から防災への意識を持たせることもできた。

本校では、大震災以前から防災学習、とりわけ地震への備えという観点から

学びを深めてきた。そして、大震災発生以来、その経験を根拠としてこれまでの学習内容を検証し、より実用的な学習内容へと深化させている。今後も改善を加えながら、子供の防災への意識を高めさせていける学習活動を模索していきたい。

#### <国際理解について>

4年生では、社会科の学習と関連させて、仙台市の姉妹都市（ダラスなど）を紹介し、外国に対する興味を高めさせた。その後、自分が特に興味を持った（行ってみたい）国を決定し、調査活動を行った。

調査活動では、図書資料の他に iPad を用いて情報を集めさせ、その後、学級や学年単位で発表会を行った。日本と外国との共通点や相違点について気付いたことをまとめさせたことで、それぞれの国についての理解を深めさせることができた。

5年生では、ハワイの小学生との交流を行った。具体的には、それぞれの学校生活や遊びを中心とした伝統文化を紹介し合う活動である。動画を送り合って交流したり、オリジナルかるたを作成してハワイに送り、ハワイの小学生に遊んでもらったりするなど、互いの文化に対する理解を深めさせることができた。

その他にも、人事交流として、ハワイ大学訪問団との交流やハワイ大学への本校職員の研修派遣、JICA 訪問団との交流、デラウェア州立大学学生との交流、中華人民共和国の小学校への視察訪問や研修、北京教育科学院からの来校など、幅広く行った。

#### <伝統文化について>

3年生では、地元の祭りである、仙台七夕祭りについて興味を持ったことを追究する活動を行った。市の中心街を彩る七夕飾りや七夕の歴史、星座等の観点からテーマを設定して調べた後、同じテーマで調べた児童がグループとなり、同学年の子供や保護者を対象とした発表会を行った。また、七夕飾りに詳しい方をゲストティーチャーとして招き、飾りの意味やその作り方について学習することもできた。実際に飾りを作製し、市のアーケード街に飾らせてもらったことで、七夕を身近に感じさせることができた活動であった。

#### <食育について>

5年生では、米作りに焦点を絞り、課題を設定した。具体的には、米づくりの歴史や日本と世界の米の違い、品種、害虫対策、生育環境、手入れ等である。実際に一人一つのバケツ稲の成育活動を通して、理科の学習を生かしながら条件を制御し、課題に添った生育環境を作り、調査を進めた。そのことで、米づくりがいかにか精巧に行われているのかや飼育の大変さを学び、日頃の食生活について見つめ直させることができた。

また、本校は自校給食である。栄養教諭による給食に使われる食材やメニューに関する豆知識等を毎日各学級にお便りで伝えてくださったり、献立も世界の料理や郷土料理を取り入れたり、地産地消メニューを設けたりするなど、力を入れている。さらには、学年の発達段階に合わせた食育活動も行っている。具体的には、1年生では、グリンピースのさや向き体験、3年生では、トウモロコシの皮むき体験、5年生では、フランス料理のシェフを招いてのマナーに関する学習などである。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

第5学年 総合的な学習の時間 (防災)

※別紙 (添付書類) 参照

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- ・ 震災に関する各種アンケート結果のデータ (仙台市ウェブサイト 等)
- ・ 防災関係各種雑誌 (防災ウォーカー 等)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、今年度、特に総合的な学習の時間において、持続不可能な地域や世界の課題を受け単元を構築する ESD の視点に立った年間活動計画の修正を行った。

その上で、各学年の「資質・能力」「活動内容」「他教科との関連性」等の系統性や SGD's との関連をより明確にしていくことをねらいとした。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、ユネスコスクール担当者を校務分掌に位置付け、ESD の理念を共通理解するための研修会を行ったり、各学年に総合的な学習の時間の担当者を位置付け、ESD の視点に立った授業の在り方について定期的な話し合いを行ったりしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

ESD の視点に立った総合的な学習の時間の構築を校内研究の柱の一つとし、定期的に学習内容や子供の姿について話し合いの場を設けている。その中で、ESD カレンダーをより有効に活用するための教科で得た学びや見方・考え方を総合的な学習の時間でどのように活用するかといった表の工夫が必要であることが明らかとなった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度より、校内研究の柱の一つとして ESD の視点に立った総合的な学習の時間の年間計画の修正を行っている。本校は、大学附属の学校であることから、毎年公開研究会を行っている。30年度の2月の公開研究会において、その成果を発信する計画である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校は大学附属の小学校であることから、宮城教育大学の各先生方には様々なご教授をいただいている。特に、見上学長や市ノ瀬先生からは御講話や御助言をいただいた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

現在は行えていない。しかし、今後は、被災地の公開中心校として、様々な地域との交流を図り、学びを発信したいと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

総合的な学習の時間において、学びの発信への意欲がより高まった。それは、単元の導入で、持続不可能な問題や課題を自分事として捉えさせ、「自分たちには何ができるのだろうか」という思いを持たせることができた成果だと考える。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成30年度は、先に述べたとおり、各学年の生活科、総合的な学習におけるESDの視点に立った年間計画の修正、各教科等での具体的な学び（資質・能力）や、各教科特有の見方・考え方を生活科や総合的な学習の時間にどのように働かせていくかを記した表の作成を行い、2月の公開研究会で、全国の先生方にその成果を発信していく計画である。